

# 明治学院プラチナカレッジ

## 震災復興テーマに講演

2022年度「明治」学院プラチナカレッジの第2シリーズ「組織とコミュニティのレジリエンス」に学ぶ(全3回)の第2回講演が7月1日、東京・白金台の明治学院大学で開催された。当日は、矢吹光一とほう地域総合研究所理事長が「東日本大震災からの復興とふくしまを生きる」をテーマに、真の復興に不可欠な人の絆や地域活性化に向けた情熱について語った(写真)。

よび経営コンサルティンクや、各種講演会の実施、機関紙「福島の進路」をはじめとした出版事業などを行っている。

福島の総人口は1988年をピークに減少傾向であり、さらに東日本大震災により減少スピードに拍車がかかっている。その一方



で、福島県には多くの企業が進出し、設備投資などを通じて震災後の復興に寄与している。特に製造業の出荷額は震災前を上回る水準まで回復の傾向にある。

矢吹氏は、経済的な「豊かさ」の面での復興と共に、人と人が支え合うことで生まれる「豊かさ」を新たな尺度として産業を捉え、復興を促すことを強調した。「震災当時、東邦銀行では通帳や印鑑がないお客さまに臨時の現金払いを実施した。福島交通では入院患者の緊急輸送を命懸けで決行し、公共交通機関の使命を果たした。東北人の魂と矜持が愛するふるさとを真に復興させる。未来を生きる子どもたちのために地元で貢献したい」と語った。

その他、震災直後から現在に至るまでの福島県民の様々な思いを象徴するエピソードが紹介された。倒産の危機を乗り越え、事業再生した温泉旅館が、のべ約1万3000人の被災者に無料で宿泊所を提供したことなどを通じて、今では「じゃらん東北で11年連続1位」を獲得している事例や、震災直後には全村民に避難指示を出したが、住民の強い希望によって、段階的帰村を履行した川内村村長の決意などの事例が挙げられた。

現在、福島では豊かな自然を活用した風力・水力・火力発電事業や、地域内外のネットワーク構築に欠かせない交通インフラ整備が展開されている。

矢吹氏は、「変革は情熱から生まれる。知識や論理だけでは人の心は動かない。お客様のために何ができるか本気で考え抜いた行動によって、はじめて人は動く。他人と過去は変えられないが、自分自身と未来は変えられると信じて、地域に必要なとされる喜びを感じながら復興に尽力していきたい」と講演をまとめた。